



は せ がわ
長谷川

ただし
正

む かい は
無 会 派

赤字つづきの一志温泉の経営改善を

問 一志温泉の年間の赤字額は、約2,140万円である。タオルとバスタオルのクリーニング代金は約1,500万円、補充する新品のタオルとバスタオルの購入代金は、約180万円。合計が年間約1,680万円で、赤字経営の大部分をこれらが占めている。年券も安すぎ、一回の入浴が数十円に入れる。一日に2回3回と入浴に来る方もいる。貸しタオル制度と年券制度を廃止すべきである。

答 一志温泉やすらぎの湯は、地域住民の健康増進に寄与するとともに、地域住民の憩いの場となっていることから、使用料を安価に設定することにより、老若男女問わず幅広い年齢層の方々に楽しくご利用いただいている。

しかし、年々赤字額が増加していることから、経費削減を図る必要性も十分認識している。

また、監査委員から平成27年3月に措置対象指摘事項として、タオルの貸し出しの有料化や年会員券を含めた使用料の見直しなど、さらなる収支の改善が求められていることから、早急に改善策を取りまとめ、収支の改善に努めていく。

●その他の質疑・質問●

○JR名松線の再開通記念式典を松阪市、JR東海、地元各種団体と協力して盛大で晴れやかに開催すべきでは

○市のコミュニティバスの利便性をもっと向上させるべきでは
○本庁舎と総合支所庁舎のトイレは温水洗浄機能を備えた洋式トイレを増やしていくべきでは
○国登録有形文化財「角屋旅館」は市で保存すべきでは など



▲一志温泉の赤字経営の元凶のレンタルタオルとバスタオル



か どう み え こ
加藤 美江子

こうめいどう き いんだん
公明党議員団

津市児童発達支援センターについて

問 津市児童発達支援センターは、これまでの肢体不自由児通所施設である療育センターの機能が拡充され、心身や言語、運動の発達に遅れのある就学前の子どもに対しても支援の輪が大きく広がると思うが、一人一人の個性を尊重し、一人一人の能力を見いだす努力はどのようにしているのか。

答 津市児童発達支援センターを利用されるお子さんは、自分の言葉で自分の思いをうまく表現することが難しい、またできないお子さんも少なくない。このことから、そうしたお子さん一人一人に、保育士をはじめ、言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士などの専門職が関わり、子どもの表情や行動のサインから気持ちをくみ取ったり、保護者からの情報に耳を傾けながら、それぞれの専門的な目線で見立てを行い、それをミーティングで相互に共有するように努めている。

今後も一人一人のお子さんに応じた支援計画により、心のこもった支援を提供し、お子さんの力を最大限に引き出すことができるよう取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

○幼・小・中の特別な支援を必要とする子どもたちへの取り組みについて

●成功事例を広く発信すべきでは

○認知症初期集中支援チームの設置について

○認知症サポーターの役割と活躍の場は

○産後ケア事業について

○地域連携課の役割は など



▲一人一人の発達状況に対応した津市児童発達支援センター